

生活リハビリテーションセンターだより

特集

～当事者の声、家族の声～

生活リハビリテーションセンターだよりの第4号を発行いたしました。

今年の夏は、例年に増して暑さの厳しさと度重なる台風接近にご利用の皆様にもご負担が多かったように思います。

さて、堺脳損傷協会では研修会を毎年開催されており、生活リハビリテーションセンターでは開所以来この研修

会への共催をさせていただいています。近年は当事者やご家族の声を届けるフェスティバルという形での開催内容となっており、当センター利用者の方々も発表をされました。今年も現在利用されている方と卒業されたお二人にお話をいただきました。今回のセンターだよりは「当事者の声」「当事者を支える家族の声」を中心にお届けしたいと考えました。 (センター長 増田)

■当事者の声 堺脳損傷フェスティバル講演会記録①

「脳腫瘍になった僕」

久宗 拓也さん

小さい頃から頭痛がありましたが、頭痛薬を飲んでなんとか過ごしていました。美容師学校に通っていた19歳頃に、頭痛がひどくなり、体のバランスがとれないようになっていくことに気づきました。

専門学校の体育祭で100メートル走ったとき、2回ほど転んでしまいました。それを母に言うと、心配して近所にある清恵会病院を受診することになりました。検査をしてもらうと脳に腫瘍が見つかったので、府立急性期・総合医療センターを紹介していただいて入院することになり、入院2日目に手術をしました。

かなり大変な手術だったようで、手術に22時間かかったようです。

母が言うには、術後はほとんど話をしなくなり、徐々に言葉を話すようになってからは食事をしたのに食べたことを忘れてしまったり記憶が悪くなっていることに気づきました。食事をする方法や順番も決められず、よくどのようにすればいいのか聞いていたようです。入院中のリハビリでは、階段の上り下りの練習をしたり、足のトレーニングをしていました。

平成26年9月に治療が終わり退院しました。退院後すぐに生活リハビリテーションセンターのスタッフの方と理学療法士の方が家に来てくださいました。そして家で行える簡単なリハビリを教えてくださいまして毎日続けました。

そして9月26日、生活リハビリテーションセンターへの通所訓練を始めました。通所を始めた当初は、週1回のリハビリテーションセンターの利用でした。リハビリテーシ



ョンセンターの利用は精神的にも肉体的にも回復させるために利用させてもらっています。

入院当時は自分一人で移動することができなくて車椅子に乗って、母親など誰かに補助を頼まなければ移動することもできず、社会に出たときの対応や常識などもわかっていなかったです。もちろん今でも完璧ではないですが、入院当時と比べると、今は少し社会に出たときの対応や常識を理解することができるようになってきました。

人との約束や通院日の予定を忘れてたり、食事をしたことも忘れることがありましたが、生活リハビリテーションセンターを利用するようになりメモや付せんのアプリを使って記憶を補う手段を手に入れました。

今まで家族には世話や心配ばかりかけてしまったと思うので、今後はリハビリを続けながら、いつか働いて自分の力で生活できることを目標としています。



■当事者の声 堺脳損傷フェスティバル講演会記録②

「前を向いて」

大仲 繁樹さん

敷物関係の仕事をしていました。中国に出張したりと多忙な日々を送っていました。平成25年の1月、急性大動脈解離になり、その後高次脳機能障害と診断されました。6か月の入院はとても嫌でした。ベルランド病院で手術している間、なかなか終わらないので早く家に帰りたと思っていました。

父と息子、娘が「無事に」との思いで、多治速比売神社（たじはやひめじんじゃ）に行ってお参りをしたと聞き泣きました。家族や友だちが私によくしてくれてうれしかったです。リハビリは、なやクリニックと健康福祉プラザに行きました。皆さんよくしてくれました。

今はさくら作業所に行って、婦人・紳士の下着などを畳んでいます。

去年から友だち3人で、城めぐり旅行を楽しんでいます。姫路城では、白い白鷺の天守閣がよみがえること

で、すごくきれいでした。織田信長、斉藤道三ゆかりの岐阜城と金華山ロープウェイで、四季の自然美を満喫しました。また、竹田城跡にも行き、立雲峡から雲海の竹田城を見ました。天空の城の雲海がきれいで感動しました。同級生の橋本君、三輪君にはいつも感謝しています。

最後に、突然病気になり家族は大変だと思います。これからもいろいろあると思いますが、前を向いて生きていこうと思います。ありがとうございました。



出張勉強会のご案内

～高次脳機能障害について～

堺市高次脳機能障害支援拠点機関がこれまで実施した支援普及研修会の内容を中心に出張勉強会を実施しています。

医療福祉分野などで日々高次脳機能障害児・者の支援に携わっておられる施設や事業所の人材育成のための施設内勉強会としてご活用ください。なお、堺市民の方がご利用されている施設や事業所を対象としています。お気軽にご相談ください。

主な勉強会のテーマ

- 堺市高次脳機能障害支援拠点と自立訓練について
- 高次脳機能障害とは ～高次脳機能障害を理解するために～
- 相談支援のポイント ～実際の事例を通しての課題の整理と対応策～
- 社会的行動障害（主に感情コントロール）への適切な対応と支援者が知っておきたいこと
- SSTから考える社会的行動障害への対処法
- 記憶障害・注意障害に対する認知リハビリテーションについて
- 高次脳機能障害者のリワーク（復職）について
- 高次脳機能障害者の社会参加支援
- 適切な座位姿勢のための簡易な評価方法と対処法について



※複数の内容をシリーズで実施することも可能です。

※上記テーマ以外にもご希望のテーマがございましたらご相談ください。

- ◆料 金：無料（資料は、データでお渡ししますので施設にてご用意ください）
- ◆開催時間：土・日・祝日を除く午前10時～午後7時まで（1回約60分間）
- ◆申込方法：TELまたはメール（メールの場合は、件名に「出張勉強会」と明記してください）
TEL.072-275-5019 E-mail:seikatsu-reha@sakai-kfp.info
- ◆問 合 先：堺市立健康福祉プラザ 生活リハビリテーションセンター（増田・安藤）

当事者を支える 家族の声

今回は、夫が病気やケガが原因で脳損傷を負われ、その後遺症から一度は離職されながらも、再びお仕事を始められた当事者を支えてこられたお二人にインタビューをさせていただき、受傷から現在に至るまでの家族の気持ちについて語っていただきました。

山下 京子さん

「はばたきの会」会員。夫が6年前に脳出血を発症。退院後は老人保健施設の入所を経て通所開始。通所開始時は車椅子介助で通所を行っていました。

Q 病気になってから生活リハの訓練が始まるまでについて教えてください。

A 建築関係の会社に勤めており、現場監督をしていましたが、6年前に脳出血になり、左片麻痺と高次脳機能障害になりました。病院退院後は私の病気の治療があり、しばらくの間、老人保健施設に入所してもらいました。退所と同時に生活リハに通い始めました。通所を始めた当初は屋内は杖歩行でしたが、屋外は車いす介助の状態、私が車いすを押してバスを2本乗り継いで通いました。私も体が弱かったので、大変でした。



Q このとき、ご家族としては就労についてはどう思っていましたか？

A 身の回りのこと全てを自分ではできない状態でしたので、就労のことは全く考えていませんでした。まずは、しっかり歩いて、身の回りのことを自分でできるようになってほしいと思いました。目の前のことをするので精一杯で、先のことを考えることはできませんでした。

Q 訓練が始まってからのご本人の変化とご家族の気持ちはどのようなものでしたか？

A 初めにリハビリの担当者から「車いすを手放せるようになるかもしれない」と聞き、一筋の光が見えました。歩くのが段々としっかりして、バスの練習もして一人で歩いてバスを使って通所できるようになりました。一人で公共交通機関を使えるようになったのは非常に大きかったです。ただ、できることが増えると自信を持ったのは良いのですが、「建築関係の事業を始めたい」と現実的ではないとも言いはじめたのは困りました。

Q 生活リハ退所後はどうされましたか？

A 本人はパソコンをしっかりと勉強したいというので、生活リハの担当者と一緒に探した就労移行支援事業に通い始めました。通所する中で、徐々に就労したいという気持ちが強くなり、どうしてもということで就労継続支援A型事業所の就職試験を受けたりしました(落ちましたが)。また、昔付き合いのあった方から仕事を頼まれ、一緒に働いていた職人さんを手配するなどして仕事をしたこともありましたが、これをするには勤めていた会社の社長に挨拶しておいた方が良いかと思い、社長にも久しぶりに会いました。すると、数年後に社長から連絡が入り、以前の経験を活かして週に1回、仕事をしないかと言われました。

Q 今はどうされていますか？

A インターネットで行政の入札物件を見積りする仕事をしています。以前の現場監督の経験を活かせる仕事です。はじめは週に1日でしたが、仕事を評価していただいたのか、今は通勤に便利な場所にオフィスを構えてもらい、週に3日程勤務をしています。



Q 家族としてはどのようなお気持ちですか？

A 仕事が決まったときは主人と一緒に大変喜びました。会社には、主人に期待していただいてありがたいです。ただ、主人が会社に迷惑をかけないかが心配ですし、失敗しないかどうかも不安です。また、体の面も心配です。通勤は大丈夫かな、暑いのは大丈夫かなと心配しています。家族としてはこのまま仕事を続けてほしいと思います。仕事を始めてから電話対応もうまくなった気がしますし、仕事は主人に良い影響になっていると思います。

黒田 友子さん 「はばたきの会」会員。夫が14年前の交通事故による頭部外傷受傷。
事故前と事故後との変化に戸惑い、また周囲からの理解も得られにくく、ご苦労されていました。

Q ご本人が事故にあわれてから生活リハの訓練が始まるまでについて教えてください。

A 14年前に出勤中に車に衝突され、頭部を受傷しました。翌年に復職しましたが、ミスが多く退職しました。その後もいくつかの職を変りました。事故前よりも注意力や記憶力の低下があり、また怒りっぽくなりました。当初はなぜ事故前と様子が違うのか分からず、また退職に伴い経済的にも状況が変化し、大変な思いをしました。高次脳機能障害の診断を受けてからも周囲に理解してもらえずに苦労しました。

Q 生活リハが始まってからのご本人の様子とご家族のお気持ちを教えてください。

A 生活リハでは小さなことでも褒められることが多く、いきいきと通っていました。生活リハであったことを楽しそうに話すことも多かったです。また手帳で予定管理をするなどして、できることも増え、本人が自信をつけていっている様子がよく分かりました。その様子を見るとうれしかったです。



Q 生活リハの訓練期間中、家族としてはどのようなことが不安でしたか？

A 契約した訓練期間中に就労が実現するのかが不安でした。また、訓練開始からどんな段階を踏んで就職をめざすかといった見通しをつけることが家族にとっては難しかったことも不安の一つでした。

Q 現在、就労を継続されていますが、今の家族のお気持ちとしてはいかがですか？

A 就労が決まった時から、職場の環境や仕事が徐々に変わってきています。本人にとっては仕事のやり方やメンバーが毎日変わると混乱する原因になります。能力が発揮できる環境が続いているかが気になりますし、障害者就業・生活支援センターエマリスや生活リハがチェックしておいてほしいです。そういう意味では、就労した後もエマリスや生活リハとつながっているのが大事だと思います。

Q 今後のお仕事についてはどのように考えておられますか？

A 本人には「自分が無理をしても経済的に自分が家族のために働かなければならない」とは思っておりません。無理をして心や体を壊してほしくないです。かといって家にこもることも良くないので、社会に出てほしいとは思っています。

Q 生活リハについてメッセージをお願いします。

A 月に1回の家族会に参加して、家族として良かったです。いろいろ話を聞くことができました。自分も、少しでも他の方の参考になればと思い、家族会でお話しています。個人的には1時間では短いかなと思いますが、家族会が終わってからも話が長く続きます。また、家族はそれぞれ不安を抱えています。本人との面談はもちろんですが、家族のための面談時間もしっかりとってもらえると良いかと思っています。

<お話を聞きまして>

ご家族は常に不安を抱えておられること、また時期によって不安の内容は変わっていくということを改めて感じました。生活リハは、ご本人だけでなくご家族の不安にも寄り添った上で支援をさせていただくことの大切さを感じています。

インタビューを受けていただいた山下さん、黒田さん、本当にありがとうございました。 (中岡)

堺市立健康福祉プラザ 生活リハビリテーションセンター

〒590-0808 堺市堺区旭ヶ丘中町4丁3番1号 堺市立健康福祉プラザ内 4F

TEL.072-275-5019 FAX.072-243-0202

■開館時間 9:00~17:30 ■休館日 土・日・祝日・年末年始(12/29~1/3)

<http://www.sakai-kfp.info/>